

皆様の暮らしに安心と活力をお届けする情報誌

August vol.2
たよ

くりんぱーく便り

株式会社門前クリーンパーク 輪島市門前町劔地口1番地 TEL. & FAX.0768-45-1820

「安全・安心な管理型最終処分場の実現」と 「地域の発展に貢献する優良な環境企業」を目指します。

リサイクルがどんなに進んでも、最終処分場は不可欠ですし、石川県周辺の処分場の残余年数は、今回の震災で大幅に減少しました。新たな処分場の確保により、過疎地への不法投棄の環境リスクを回避し、美しい能登半島を守ると共に、健全な循環型社会実現のためお役に立ちたいと願っております。

最終処分場とは?その②

今回は「安全性の高い最新鋭の施設・設備」についてご説明いたします。

1. 安全な遮水構造

廃棄物埋立地の底面と側面に多層構造の遮水工を配し、浸出水(廃棄物に触れた雨水)を基礎地盤へ漏らしません。

遮水工の構造



●多層遮水工でしっかりガード!

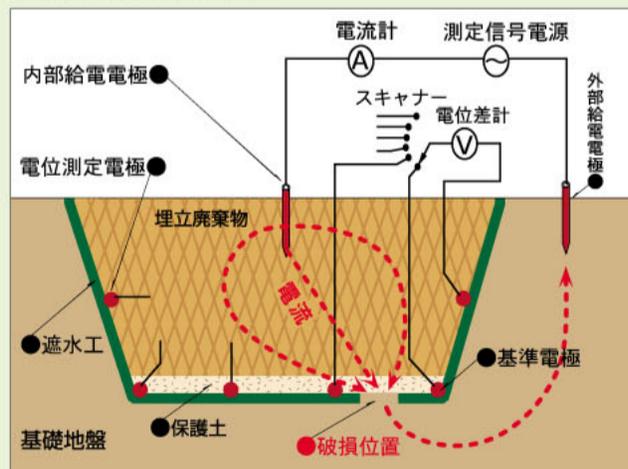
- ①短繊維不織布
廃棄物中の突起物などから遮水シートを守るためのクッション材になります。
- ②遮水シート
高い強度や耐久性、伸び特性を持ち、遮水性能を發揮します。
- ③短繊維不織布
上部の遮水シートと下部の導電性マットを保護します。
- ④導電性マット
漏水検知システムの導電性のマットです。遮水シートの破損の検知に利用します。
- ⑤遮水シート
第2層と同様の遮水シートを、第5層にも敷設。二重のガードで、浸出水を漏らしません。
- ⑥短繊維不織布
廃棄物により大きな圧力がかかった場合でも、遮水シートを保護するクッション材になります。

水を漏らさず、ガードします!

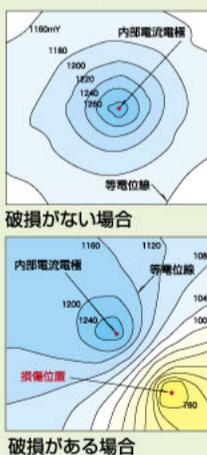
2. 安心の漏洩検知システム

浸出水を漏らさない万全の体制ですが、さらに万が一に備えた「漏洩検知システム」も導入します。365日の監視体制で、電位測定により遮水シートの欠損を検知し、位置を特定できますので速やかな補修が可能です。

漏洩検知システム概要図



電位分布図 (モデル実験結果)



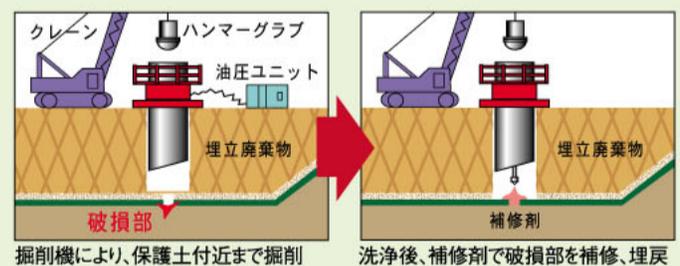
●万が一に備えた的確な補修技術

漏洩検知システムにより検出された破損部を破損位置や程度に応じた適切な工法で早急に修復することができます。

【修復工法例】

- バックホー工法
バックホー等の機械を使用して掘削し、損傷箇所の補修を人力により行います。
- 深掘工法
立坑を掘り下げ、人力により損傷箇所を補修します。
- 機械化工法
機械で立坑を掘り下げ、損傷箇所の補修をすべて遠隔操作で行います。

もしもの時も迅速に補修します!



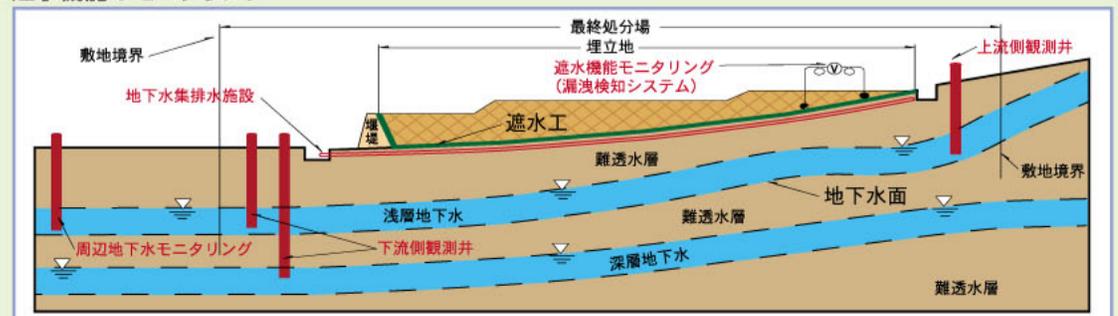
3. 厳重な水質監視

高度な遮水構造、漏洩検知システムを採用すると共に、定期的に観測井戸や地下水集排水施設で採水して分析します。測定頻度や個所数については、今後輪島市、志賀町と締結する「環境保全協定」によります。



みんなが安心して暮らせる環境づくりを目指します!

遮水機能のモニタリング



※今後の設計・協議の中で、より安全に配慮して見直す可能性があります。

お手紙
ありがとう!



見学会開催報告

2007年2月に行った見学会の報告と参加者の方からのお手紙をご紹介します。

去る2月10日、11日の二日間に、施設見学会を開催いたしました。当日は、地権者の皆様方にご参加いただき、「君津環境整備センター／管理型最終処分場」(千葉県君津市)と(株)タケエイ運営の「大木戸最終処分場／安定型最終処分場」(千葉県千葉市)、「川崎リサイクルセンター」(神奈川県川崎市)の3施設を見学していただきました。また、大木戸最終処分場では、地元の元対策委員長の田中様より建設当時の話や現在の地元と(株)タケエイとの関係をお話しいただきました。

元 大木戸最終処分場建設対策委員長 田中啓治様より

当時は、処分場の建設場所が「住宅地のすぐ横」という理由と、処分場の悪いイメージも重なり、とりあえず反対運動に参加しました。建設にいたるまで、数多くの話し合いや施設の説明を十分に理解したことで、地元の皆も建設に了承をしました。現在までの安全性や運営面、地域貢献等についての信頼感や安心した生活を保っていることで、今では心強いパートナーと思っています。

見学後のアンケートより

- 処分場の先入観があって、本当にここが埋立地?と疑いたいほどに整備されていて、管理体制も完璧だと思った。
- 事業者と地元の双方が良く理解した上で信頼関係が深まったのだと思った。
- 廃棄物処分施設とは「きたないものを捨てる」イメージでしたが、それとは一転して、土も水もきれいでした。
- 施設の社員教育が徹底していることに好印象を受けた。



大木戸最終処分場／第3期全景
・埋立面積／第3期 49,153m²
・埋立容量／第3期 701,279m³

ISO 14001
も取得済だよ!

施設見学を終えて 川口 喬一(筑波大学名誉教授)



川口 喬一様

富来町に住む甥の光美君から久しぶりに電話を貰った。大釜地区が産業廃棄物の処分場になるという知らせであった。

大釜といえば、いまは輪島市門前町に組み入れられているが、昔でいえば、石川県鳳至郡劔地村字大釜、ちょうど百年前の明治40年、私の父が生まれた所だ。父はやがて北海道に移住し、そこで私たち兄弟姉妹が生まれた。だから私の本籍地は結婚するまで大釜にあった。子供時代以来、懐かしい大切な場所だ。

昭和14年、私が小学校一年生のとき、われわれ家族総勢六人で、はるばる北海道の山奥から、鉄道と連絡船を乗り継いで大釜に里帰りしたことがあった。二日がかりの大旅行だ。最後は、中島からタクシーで山を越えた記憶がある。はじめて見る父の故郷だ。北海道にはない椿の花が咲き、牛小屋があり、家の前の小川では、洗い物をする茶碗の中に小魚が滑りこみ、海岸まで歩くと夢が浜の美しい浜辺が待っていた。なにもかもが新鮮な経験であった。いつまでも残したい風景だ。

その後、学生時代にも何度か訪れたが、少しずつ住民が減り、過疎の村になっていることは承知していた。時代の流れとはいえ、そこが今度産業廃棄物の処分場になるという知らせには大いに驚いた。しかしいろいろ事情を伺ってみれば、これは宮坂区長さんをはじめとする模索の結果、住民の意思による苦渋の選択であるという。やはりこれが故郷創生のための最善の選択なのであろうか。もしそうなら、そのために私でもできるだけの協力はしようと思ったのであった。そんな折、今回の事業者であるタケエイの主催による、関東地区の既設の処分場施設を視察する見学会へのお誘いを受けた。いい機会なので家内と子どもも喜んで参加することにした。

能登空港から上京した見学者と羽田空港で合流し、さっそく「海ほたる」を経由して、君津にある「管理型産業廃棄物処分場」に向かう。千葉県南部、房総丘陵の真ん中にある大掛かりな処分場で、こちらはタケエイではない別の会社の運営になるもので、燃え殻、汚泥、がれき類など、十四品目を埋め立てるかなり大掛かりなものだ。環境への汚染を遮断する綿密な遮水構造などの説明を受ける。日頃、ゴミを出すだけの立場にいる人間として、末端の処分場の規模の大きさに驚かされる。

千葉のホテルに一泊したあと、翌日はいよいよタケエイの運営す

る大木戸処分場だ。こちらは顧客から排出された物を収集運搬したのち、中間処理と再資源化を経たあとの最終処分場なので、廃棄物も細かに処理されていて、初日に見た処分場より清潔感もあり、まわりの自然環境をうまく取り込むように配慮されている。埋め戻されたあとは美しい田園の丘陵になりそうな気がする。これならやがて何年か後には、大釜の地も、私の遠い記憶に残る里山の風景がよみがえるかもしれない、という希望がわいてくるのであった。



大木戸最終処分場の見学風景

二日目の最後に訪れたのは、タケエイのご自慢の川崎リサイクルセンターであった。川崎臨海地区の一郭を占める最新技術を盛り込んだリサイクルセンターであった。関東一円から回収・運搬された建設系廃棄物は、受け入れ検査・計量を経て、その上で粗選別・ライン選別・機械選別などを通して、最後に再資源化機械装置の処理を経て、外部処理に回されるものと最終処分場に運ばれるものとに仕分けされるのだ。環境負荷を徹底的に抑えた最高レベルの最終処分、というのがタケエイの目標である。その過程は、たまたま当日が日曜日であったために十分に見学できなかったが、さぞかし目を見張るものがあったことと想像される。

われわれ一般市民は、毎日家庭のゴミを出すだけで、まわりの事業所も無限に廃棄物を送り出す。それが最終的にどのように処理されるのかまでは、なかなか関心が及ばない。今回の見学を体験して、三本守社長はじめ社員一同のこの事業にける真摯な気構えに大きな感銘を受けた二日間であった。この上は、門前クリーンパークの健全な出発と展開を心から祈りたいと思う。

民間管理型処分場及びタケエイ施設を視察して 扇間 政美知(門前町劔地)



扇間 政美知様

平成19年2月10日、11日、かねてから(株)門前クリーンパーク社長、及び大釜区長より案内があった視察に参加させてもらった。

最初に訪れたのは、千葉県君津市にある新井総合施設(株)の管理型産業廃棄物最終処分場「君津環境整備センター」だった。

埋立て容量107万m³の広大な埋立地を段階的に埋めていき、最後に植林して終了になる。

過去何回かの説明会やパンフレットで、シートやセンサーのことを知っていたが、遮水シートを保護するように重ねられた遮水工や、漏洩検知システムを理解することが出来た。最終処分場の安全面では、受け入れ品目以外の有害物質を混入させないことと、浸出水の処理が重要だが、ここでは大掛かりな設備で排水基準値をクリアして、更に埋立終了後も水処理施設は浸出水を直接河川に放流す

きる水質になるまで稼働を続けることのであった。例えば事業者が倒産しても20年間は維持管理積立金により管理する仕組みになっている。

次に訪れた千葉市緑区の大木戸最終処分場は安定型処分場で現在第3期とのことだった。先ず目についたのは、すぐ側に民家や農地があったこと。計画当初は、反対だったが、説明を重ねて理解し合意に至ったということだった。近くに傾斜地の竹林があり、そこも地主さんから処分場拡張用地として申し出ていると話していた。年間を通して悪臭や塵埃がほとんどなく、埋立てが完了した所は平坦な農地として地権者に返還するそうだ。

最後に訪れたのは、タケエイ川崎リサイクルセンターだった。

川崎臨海部の工場地帯にあり、基本的には、24時間、365日受け入れ可能で、ほとんどの建設系廃棄物を処理する。リサイクル率94%以上で、一部は人手による大まかな選別を行うが機械処理能力は、3,143t/日とのことであった。リサイクル出来ない可燃物は焼却してエネルギー源にし、不燃物は最終処分場へ行くことになる。



君津環境整備センターにて

広大な敷地の周囲には緑地帯を設けた新しいリサイクルセンターだった。今年の冬は気象観測史上記録的な暖冬とのことだが、単に積雪がないことを喜んでばかりいられない。世界的規模で温暖化防止や、省エネルギー、リサイクル、自然保護等々、環境を考慮した最終処分場が望まれるゆえである。

Topics

輪島市産業廃棄物処理場建設問題検討委員会(第4回)報告

6月26日(火)に輪島市文化会館にて第4回輪島市産業廃棄物最終処分場建設問題検討委員会が開催されました。

その場で、(株)門前クリーンパークから事業計画をご説明いたしました。

委員の皆様にご説明する機会をいただき感謝しています。また、検討委員の皆様にご熱心に聞いていただき、多数のご意見・ご質問をいただきました。引き続き、地域の皆様とのコミュニケーション、信頼関係づくりを推してまいります。

尚、説明に使用した資料をご希望の方には、お送りいたしますのでお問い合わせください。



(株)門前クリーンパーク 三本代表取締役社長

キャラクターネーミング決定!!

素敵な名前
ありがとう!

「クリーンパーク便り」のマスコットキャラクターの名前が決定いたしました!

正式名「クリンパ」 命名者 服部 よし枝様(羽咋郡志賀町)

多数のご応募をいただき、誠にありがとうございました。今後とも仲良くしてください。



【クリーンパーク便り創刊号に関する訂正のお知らせ】

前号(Vol.1)の記事内容につきまして、6月21日付けにて輪島市議会議長より抗議・訂正文の掲載要請をいただきました。紙面の都合で正確さを欠いており、ご迷惑をおかけいたしました。つきましては、以下の様に訂正すると共に、今後、一層、正確を期すようにいたします。前号(Vol.1)裏面の計画経緯・現況の部分の2006年12月15日は、「輪島市議会にて、設置反対の「管理型産業廃棄物処分場の設置についての意見書」を可決」と訂正いたします。

お問い合わせ

株式会社門前クリーンパーク 開発準備事務所
〒927-2342 石川県輪島市門前町劔地口1番地
TEL./FAX. 0768-45-1820
皆様のご意見・ご感想をお寄せください。



本紙は、「水なし印刷」「植物性インキ」「古紙リサイクル率100%再生紙」を使用しています。